# 主題（副題とあわせて2行以内）

# 副題（副題がない場合はこの行を詰める）

発表者氏名（発表者所属）

1. はじめに

　大会発表予稿集の執筆要領は以下のとおりです。この要領は予稿集全体の体裁を整えるため、予稿集原稿執筆者にご協力いただくことを目的としています。この執筆要領自体が、以下に述べる原則にしたがって書かれています。

2. 全般的な執筆に関する注意

2.1 使用言語

　予稿集の執筆言語は原則として日本語とします。その他の言語を使用する場合には、あらかじめ大会委員会にご相談ください。ただし、日本語以外の言語による執筆、または日本語と他の言語の併用による執筆の場合も、以下の書式に準拠して原稿を作成してください。

2.2 書式とページ数

　予稿集原稿の書式は、B5判縦置き横書きで、上25mm、下28mm、左右23mmの余白をとり、1ページあたり36字×37行としてください。この書式は変更しないでください。

　原稿は、執筆言語や図表の有無に関わらず、タイトルや連絡先、空白行や掲載図表等も含めて、3ページ以内とします。原稿はレイアウト及び校正を済ませた完成稿として提出してください。

2.3 その他

　ページ番号、ヘッダー、フッターは使用しないでください。いずれも予稿集の取りまとめにあたり大会委員会で作成・使用します。

　図表を挿入する場合は、余白部分にかからないよう適宜サイズを調整してください。また、余白いっぱいのサイズの大きな図表を挿入すると、ページ送りされる場合がありますので、図表のサイズには留意してください。

　Microsoft Wordに搭載されている特殊機能（ルビ、網かけ、囲み線、囲い文字、取消し線、均等割り付け、蛍光ペン、フォントの色、拡張書式等）は使用しないでください。ただし、太文字、斜字体、下線、上付き・下付き文字は、必要に応じて使用できます。

　標準的な記号等を除いて、環境依存文字はなるべく使用しないでください。ただし、固有名詞や書名等の表記に必要な場合、日本語以外の言語の表記に必要な場合等は、使用してもかまいません。この場合でも、予稿集編集担当者のパソコンで当該文字が表示されない等の問題が発生した場合には、当該文字の使用についてご相談させていただく場合があります。

3. タイトルと発表者名

3.1 タイトルの書式

　タイトルは、MSゴシック体14ポイント中央揃えで記載してください（行間は固定値20pt、段落後の間隔は0.5行）。タイトルはサブタイトル等を含めて、なるべく2行以内におさめるようにしてください。

　タイトルと発表者名の間は、行を空けないでください。

3.2 発表者名の書式

　発表者名は、MS明朝体10.5ポイント右詰めとし、名前（所属）を記入してください。名前（所属）と本文の間は、1行空けとします。

　発表者名が複数にわたる場合も、所属はそれぞれ記載してください。また所属は原則として、大学名、研究機関名、企業名等とし、学部や所属部課局等は記載しないでください（現行の末尾に任意で掲載する連絡先には、記載いただいてかまいません）。ただし、大学院生の場合は、所属大学院研究科名を必ず記載してください。

　例：山田太郎（○○大学□□研究科）

4. 本文

　フォントは、章や節の見出しを除いて、半角英数字も含めてすべてMS明朝10.5ポイントで作成してください。Microsoft Wordの初期設定では、半角英数字はCenturyになっているので注意してください。日本語以外の言語を使用する場合で、MS明朝体では表記が困難な文字がある場合は、大会委員会にご相談ください。

4.1 章や節の見出し

　章や節の見出し文のフォントは、MSゴシック10.5ポイントとしてください。書式は、半角数字＋半角ピリオド＋半角空白＋見出し文とします。

その下の節の表示については、半角数字＋半角ピリオド＋半角数字＋…＋半角空白＋見出し文とします。

　章と章、節と節の間は、1行空けとします。ただし、章の見出しの直後に節の見出しが来る場合は、行を空けないでください。また、ページの最終行で章や節が終了した場合、次の章や節は、次ページの最初の行から記載してください。

4.2 段落

　段落の冒頭は全角1文字分下げ、段落間には空行を入れないでください。欧文等の場合は、インデントフォームでもブロックフォームでも構いませんが、インデントフォームを使用する場合は、インデントを半角2文字分以上にしてください。

4.3 句読法

　日本語の場合、句読点は句点に「。」を、読点に「、」を使用してください。それ以外の言語については、その言語で使用される一般的な句読法を使用してください。

5. 注

　「末尾注」とします。Microsoft Wordの脚注機能は使用しないでください。脚注機能を使用すると、各執筆者の予稿集原稿を統合する際に、本文中の注番号と脚注の番号の整合性が取れなくなる事態が発生することがあります。必ず、通常の文章入力方法で本文脚注番号と末尾注を記入してください。

5.1 注への参照番号

　注への参照番号は、半角数字で表し、上付き文字としてください。

　例：～との指摘がある1。～

5.2 末尾注

　末尾注のフォントはMS明朝9ポイントとしてください。

　末尾注の注番号は、1）、2）・・・のように、半角片パーレンで囲んでください。また、注番号の冒頭インデント位置は、全角1文字分下げ、ぶら下げインデント位置は全角2文字分下げにしてください（具体例を本要領の最後に掲載してありますので参照してください）。

6. 参考文献

6.1 参考文献の配列

　参考文献リストは、本文と注の次に配置します。参考文献リストは、日本語の文献とその他の言語で書かれた文献を分け、使用言語ごとに著者名順に配列してください。

　日本語の文献は50音順で、欧文文献はすべて英語のアルファベット順にしたがって配列してください。それ以外の文字で書かれた文献の著者名配列は、当該言語で一般的な準則を使用してください。

6.2 参考文献の書式

　参考文献の見出しは｢参考文献｣とし、フォントはMSゴシック体10.5ポイントとしてください。

　文献の著者名ならびに書名は、本文と同じくMS明朝体10.5ポイントとしてください。

　日本語で書かれた文献については、単行本と掲載誌のタイトルだけを『』で囲んでください。また、論文のタイトルはテンで区切って、掲載誌のページを明記してください。

　アルファベットで書かれた英語等の文献については、単行本と掲載誌のタイトルだけをイタリック体に指定してください。また、論文のタイトルはコンマで区切って、掲載誌のページを明記してください。

　各参考文献の冒頭行はインデントなし、2行目以降のぶら下げインデント位置は、全角2文字分下げにしてください。

　具体例を本要領の最後に掲載してありますので参照してください。

7. 連絡先

　発表原稿の末尾には、筆頭執筆者の連絡先として掲載を希望する項目（名前、電子メールアドレス、郵便番号・住所等のうち希望するものだけ）を記入してください。勤務先でも自宅でも連絡に都合のよい方で結構です。掲載を希望しない項目は記入しないでください。なお、予稿集への連絡先の掲載は任意です。

　連絡先の見出しは｢連絡先｣とし、MSゴシック10.5ポイントとしてください。連絡先の内容は、本文と同じくMS明朝10.5ポイントとしてください。

　見出しと連絡先内容は改行せず、各項目の間に全角1文字分のスペースを入れてベタ打ちしてください（具体例を本要領の最後に掲載してありますので参照してください）。

8. その他

8.1 予稿集原稿の内容

　発表原稿では、問題の所在、先行研究との関連、問題解決の方法、結論の明示を旨としてください。「発表では～について述べる」のように、発表の予告だけを宣言し、発表内容の提示を当日まで回避することは慎んでください。

8.2 当日のハンドアウト等の配布について

　発表当日に別途ハンドアウトを配布する場合は、発表者の責任においてコピー30部を用意し、発表当日の朝、大会開始30分前には大会受付の係員に手渡してください。その場合も、予稿集に掲載される発表原稿は、必ず提出してください。

8.3 発表原稿の提出方法

　Microsoft Wordファイル（拡張子.docx、Office Open XML形式）で、大会委員会アドレス宛に電子メールにより提出してください。メールのタイトルは「JALP20/大会/発表原稿:名前」としてください。宛先は、jalp.taikai@gmail.comです。

8.4 校正について

　本予稿集原稿については、原則として執筆者による校正はありません。校正稿において、明らかな誤字脱字の訂正、その他予稿集に掲載する上で修正が必要と判断される個所が見つかった場合は、大会運営委員会の判断において校正させていただきます。ただし、発表内容にかかわる訂正判断が必要な場合には、執筆者に問い合わせることがあります。この場合も、最低限の修正にとどめ、大幅な原稿の書き直し等は慎んでください。

9. 注・参考文献・連絡先の記載例（参考文献はすべて架空のものです）

注

1) 注の本文は9ポイントで作成してください。注の本文が複数行に渡る場合は、2行目以降のぶら下げインデント位置は全角2文字分としてください。

2) 次の参考文献との間には、10.5ポイントの空白行を入れてください。

参考文献

桜　咲代（1998）『言語政策におけるロゴスとパトス』みのわ書房

森林太郎（2001）言語権とシベリアの少数民族、『シベリア言語文化研究』4巻2号、pp. 21-39

Fischermann, I. ed. (1968) *Readings in Language Planning*. New York: Mutton.

Lupin, A. (1968) Multilingualism in South America, In Fischermann ed. (1968), pp. 512-530.

連絡先　桜　咲代　〒000-0000 ××市××町1-1-1××大学××学部sakuyo@sakura.ac.jp